

①幕張メッセにてアトラクション  
柏市立柏高等学校吹奏楽部演奏があり、『人が持っているモノは、それぞれ違う。人には必要とされる場所が、どこかにあるはずだ!』と森田健作県知事他がご挨拶し開会式が行われました。



②基調講演

『高校生の自立を支援するPTA活動の在り方』  
〜信じよう高校生を〜

千葉敬愛短期大学学長 明石 要一 氏

『いろいろな県で、地域と家庭が一体となり、県民は幼いころから風土・歴史を学習している。長野県民は県歌がみんな歌える、群馬県民は地名・偉人をかたるたで覚える...』

『ふたつの風(家風家庭、校風学校)ひとつの色(地域地域の見守り)で、三位一体となり、これからの子供たちを育てていってください!!』

確かに、お稽古事や塾で一家団欒の時間が減り、目の上の興味のない話を我慢しながら聞く機会もなくなりました。お話の中に、なるほど...と納得できることがたくさんありました。

昼食の大会弁当は、千葉県立佐倉東高等学校・調理国際科生徒が作成協力し、国内生産量の8割を占めている千葉県産ピーナツを使った料理や郷土料理をアレンジしたものをお楽しみください。



③研究発表

『進路選択と親子のコミュニケーション』  
高校生と保護者の進路に対する意識調査2016年より

講師 リクルート進学総研所長 小林 浩 氏

進路に対する親子のコミュニケーションについて、6割の親は子どもと話せていると思っているが、子どもは4割と、親子のあいだでも認識は違うようだ。また、相談相手として話を聞いてくれる母親、選択に影響を与えるのは論理的に話してくれる父親と、区別している。だが、アドバイスとして前向きになれるのは6割で、それ以外は昔の感覚で言わないでほしいと思っている。将来について、親も子どもも大変不安に感じている。

保護者には最新の入試情報が少なく、仕事が忙しく調べる時間もない。大学進学させる高校は、過干渉保護者が非常に多い。保護者は、プレッシャーばかり与えず、自分の考えを押し付けられないようにしてほしい。保護者の関わりが、大きく影響する。学校は、学力、人間関係、働く意味、将来について、善悪、マナーを教えてほしい。10年後、65%は今はない職業につくだろう。十分な思考力、判断力、知識力を身に付けて、入試を!!  
親子間での認識の違いがよくわかりました。親は『あなたのために...』と思っていることが、かえってプレッシャーになっていると思わなかった。その境界線が、わからない。多くの保護者が、最後の質疑応答で同じような悩みを持たれていて、ホッとしました。

④2日目アトラクション

千葉県立八千代高等学校「鼓組」の太鼓の演奏でした。昨年芥川高校の演奏を聴いて比べましたが、会場が大きかったこともあり、芥川高校の方が迫力があつたように思いました。

⑤記念公演 演題『私の選んだ女優の道』

女優 市原 悦子 氏

『私は、舞台俳優出身です。小劇場は、マイクもなく、汗も、ため息も、涙も、身近に感じられる。私は、お稽古をしている時が、一番好きです。時間を忘れ、昨日でよかったことが今日でできるようになったり、無責任なことが出来るからお稽古が好きです。舞台は、瞬発力、躍動感が必要です。』

『戦後、千葉市に疎開して、人として心がけることを学んだ。お腹がすいたら、みんなで分ける』

『人に感謝する気持ちを忘れない、モノを大切にすること、自分のことは自分でする。自分と同じような人は、すぐ友達になれるが、自分と違う人と友達になるのは難しいが自分を豊かにしてくれる。自分をさらけ出す勇気を持つのは、役者だ!!』

『人間は、ちっぽけだなあ...。生きるというのは、残酷だ。飢えと戦争のない平和な世界でありますように...』  
さすが、日本昔話のナレーションをされていただけあり、話すことがないと言いつつ、一時間ほどがあつという間に過ぎていきました。

市原悦子さんのお父さんは銀行員で、市原さんも銀行に就職が決まっていたそうです。入社前日にどうしてもあきらめきれず、劇団テストに申し込んだそうです。もしその時銀行に勤めていたら、今の彼女はなかったでしょう。負けず嫌い、チャレンジャー精神、向上心、とても魅力ある女性です。



⑥デイズニー・シー ホスピタリティ研修

大会に先立ち、千葉県内の高い顧客満足度を誇るデイズニー・シー・リゾートでホスピタリティ研修がありました。子どもたちに知識・豊かな情操・強い意志を育てる場とするため、「学習意欲」「環境づくり」をテーマとし、「お客様とスタッフのコミュニケーション」「親子での来園」「あちらこちらの英語の文字」「恐竜から宇宙旅行まで」など、さまざまな施設の仕掛けについて教えていただきました。今後、アトラクションや施設・キャストの見方が変わりそうです。

⑦最後に:

今回、北千里高校から初めて全国大会に参加させていただきました。初日の府立高校参加者の集合場所には、数名しかいないだろうと思つていましたが、120名ほどいてびっくりしました。私たちは初めてでしたが、OBがきている学校、6名もきている学校、会長でも副会長でもない一般の会員が参加している学校、今回4回目と言われている学校と、参加者は様々で、皆とても楽しそうでした。懇親会では長時間の自己紹介と学校PRがありました。みなさんを見ると、どの学校も活気があり、PTA活動も充実しているのがよくわかりました。今後も皆さんが『この1年、子どもと共に充実したPTA活動だった。楽しかった、やってよかった!!』と言っていただけのように、微力ながら頑張つていきたいと思つています。今回、参加させていただいたことを心から感謝いたします。有難うございました。



※大阪府立高等学校PTA協議会企画全国大会ツアー  
(平成28年8月24日〜26日実施)に参加  
ツアー参加者 34校114人(男性17人・女性97人)

平成28年度 全国高等学校PTA連合会大会  
千葉大会報告書

3学年委員 布谷 瑞穂

初日8月24日のデイズニー・シーでのホスピタリティ研修におきましては、共通の体験を通して楽しむことができる『ファミリアリーエンターテインメント』の世界を、改めて知ることができました。様々な国、年齢、性別を問わず安全安心に楽しめる工夫が徹底してされており、

短い時間ではありましたが貴重な学びの場となりました。

2日目からは幕張メッセにて『再発見!愛』今年こそ信じよう愛の絆というテーマにおいての様々な研修発表を聞くことができました。

普段より難しい年頃の娘とのコミュニケーションの不足が私の大きな悩みの一つでしたが、発表や同世代の保護者とのデイスカッションの中に大きなヒントとなるものがありました。

また、将来の自己実現のための進路選択や自立のための親として関わる上での、大切な役割を知ることができました。我が子を含め多くの子供達に不足している判断力・決断力をつける教育は、家庭や学校だけでなく地域でしていかなければいけないこと、改めてPTAの活動で高校生の自立を支援することの重要性を学びました。我が家においてはまずは一家団欒の機会を増やしていこうと思つています。

記念講演では女優の市原悦子さんのお話や朗読を聞きました。女優の道を選ぶきっかけとなったことや、戦争中の疎開先でのことなどをお話してくださいました。戦後の食糧難の時代には物を大切にすることを身を持って学ばれたそうです。それも当たり前のことだとは思つていますが、今の子供たちには当たり前のものがあるこの時代、私はきちんと教えてこられたらどうか、改めて感じました。

府立学校PTAの懇親会では、大阪府下・市内の30以上の高校のPTAの方々と交流を持つことができました。北千里高校は全国大会への参加が初めてだとお聞きしましたが、多くの学校では毎年、もしくは数回の参加をされているようで、横の連携やPTAの様々な取り組みを知ることができたりと、情報交換の場として良い機会になると思つています。



最後になりましたが、今回北千里高校PTAの代表の一人として貴重な研修に参加させていただき本当にありがとうございました。

